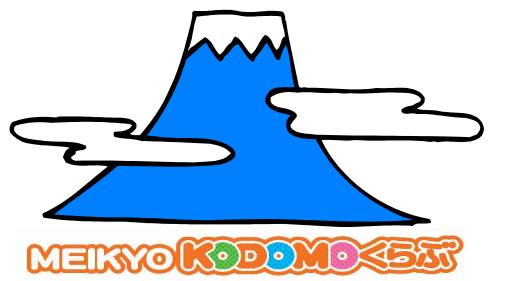


ほすぶ てつぶ じやんぶ

特訓進学塾

名教



2011年度版 第5号

塾長コラム

あんぱんち

～第十五回～

一学期が始まって少し日がたちました。子どもたちにも日常がもどってきたと感じます。

さて、前号に書きましたが、子どもたちの夏休みの宿題への取り組みはいかがだったでしょうか。今年の夏、塾でも、教科の学習以外に、特別講座「思考力トレーニング」において、読書感想文に取り組みました。小学生から中学生まで、幅広くご参加いただき、うれしく思います。子どもたちの書いた感想文はいかがだったでしょうか？ 自分の体験をもとにして、人に分かりやすく伝える文章を組み立てることは、論理力、思考力などの頭を鍛えることにつながったと思います。苦労している子もいましたが、一生懸命に頭を使っている姿が印象的でした。

そんな夏の宿題に関して、もう一つ。名古屋市立の小学校では、その多くが、夏の宿題として、『夏の生活』を配ります。今は、提出した冊子が、担任の先生から返却される頃かと思えます。その中に、「施設紹介」のページが毎年掲載されます。名古屋市博物館や名古屋市科学館に出かけようという趣旨のページです。今年度版では、博物館は特別展示の甚目寺展の紹介、科学館は春にリニューアルしたことの紹介でした。一部の学年では、エコバルなごやも紹介されていました。お子様の『夏の生活』

をご覧ください。

このように『夏の生活』に掲載されていることもあって、私は、夏休みに、名古屋市博物館、名古屋市科学館の両方に出かけます。そのうちの科学館は、リニューアルしたこともあって、子どもから大人までの誰もが科学に触れることができる展示の工夫がされたなど感じました。久しく出かけていらつしやらない方、ぜひお出かけになってみてください。おすすめです。

一方の博物館。私が子どもの頃から大きく変わらないう常設展と、特別展が見られます。どちらも、専門的な解説に加えて、子どもたち向けの解説がついているものがあります。また、スタンプラリーのように、子どもたちが楽しく見てまわりやすい工夫もされています。ただ、正直、あまり、おもしろくないのです。もちろん、個人的な見解ですが…。博物館は、歴史資料を展示しているため、そもそもの展示物自体、科学館や動物園、水族館のように動的なものが少なく、おもしろくない理由の一つかもしれません。

そんな博物館に関して、「もっと若者の来館を博物館・美術館 学生とコラボ」という新聞記事を読みました。大学生が、名古屋市博物館の常設展示である縄文時代の竪穴住居で寸劇を見せたり、ワイドショー風の解説をしたりしたというのです。博物館には、二つの機能があるという元学芸委員の人の本を読んだことがあります。二つの機能とは、歴史的・文化的価値のある物を保存する機能と、そのごく一部を市民に分かりやすく見せる機能です。私たちが目にするのは、後者の機能です。見る側の視点を取り入れて展示を工夫するという点で、記事

今号の内容

- あんぱんち
- 今月の論語
- 職業ナビ
- ブレイクミュージック
- 気ままに理科
- TSUZUKI の TUBUYAKI
- 今月のクイズ
- 読者のコーナー

の博物館の取り組みには、共感しました。別に、大学生が参加したということがすごいのではなく、博物館の企画に一般人が参加したという点で感心です。

そういえば、旭山動物園は、「見せる」ことを意識して、人気が出た動物園です。全国から集客できる動物園です。そして、東山動物園などの動物園にも、そういう「見せる」展示が増えました。旭山の功績は大きいと思います。水族館も、博物館も、「見せる」ことを意識したところは、我々素人にはおもしろいです。そして、出かける、勉強になります。わが町名古屋の博物館の今後に期待して、また来年も出かけます。(塾長 西川 陽祐)

今月の論語

子曰わく、人にして信なくんば、其の可なるを知らざるなり。大車無なく、小車軌なくんば、其れ何を以てかこれを行らんや。

相手に信頼してもらうためにはどうすればいいのだろうか？

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール15 宿題は全員が毎日必ず提出しよう。例外は許さない。

ルール16 教科から教科への切りかえは、さっさと、静かに、整然と。できるだけ早くそれまで使っていた教科書をしまっ、次の教科書を出し、ついでに宿題や授業に必要な教材も出しておくこと。切りかえにかかる時間は十秒以内、最終的には七秒を目指そう。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～ (ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社)より

「言行一致が信頼の大本になる」 最初に「人にして信」とあります。この「信」とは、信用とか、信頼のことでした。信用とか信頼を得るためには誠意を持って人と接しなくてはいいけません。心と言葉、言葉と行動が一致しているのが信というものです。

次に「其の可なるを知らざるなり」とあります。これは、信用のできない人間が許されたという話は聞いたことがありません。というように意味です。信用されない者が人生において成功したという話はありませんよ。

後半の文。大車というのは牛が引く車のことで、小車は馬車のこと。轡も軌も、牛や馬の首のところに付けて車につなぐ棒です。それがないと車のコントロールができないのです。つまり、信用のできない人間はハンドルのない車みたいなものだ孔子は言っているのです。

人間関係がうまくいくか、いかにいかかというのは、お互いに信用しているか、していないかによって決まります。信用していない人間とまともに付き合う気のある人なんていないでしょう？ 相手が嘘をつかない、言ったことをちゃんと守ってくれるという信頼関係があればこそ、安心して相手に気を許すことができるのです。

参考図書 瀬戸謙介『子供が喜ぶ「論語」』(致知出版社)